

東北地方 3か月予報

(9月から11月までの天候見通し)

平成17年8月25日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。
この期間の平均気温は平年並か高い、降水量は平年並でしょう。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。一時前線や気圧の谷の影響で天気がぐずつく見込みです。東北地方は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
気温は平年並か高く、降水量は平年並でしょう。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北地方は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

気温は高く、降水量は平年並でしょう。

11月 天気は数日の周期で変わるでしょう。一時寒気が南下して冬型の気圧配置となる見込みです。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は平年並、降水量は平年並でしょう。

<向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

<<気温>>



<<降水量>>



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日14時30分発表 次回は8月26日

3か月予報：9月22日(木曜日) 14時00分

寒候期予報：9月22日(木曜日) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量)

	気温(℃)				降水量(mm)			
	9月	10月	11月	9~11月	9月	10月	11月	9~11月
大船渡	19.3	13.8	8.2	13.8	218.7	142.3	104.5	465.4
新庄	19.0	12.3	6.2	12.5	153.0	151.9	195.4	500.3
若松	19.9	13.2	7.0	13.4	134.0	77.6	73.3	284.8
深浦	19.1	13.3	7.5	13.3	176.0	165.6	147.2	488.7
青森	18.9	12.6	6.4	12.6	119.8	106.0	131.7	357.5
むつ	18.0	12.2	6.3	12.1	172.7	115.4	115.4	403.5
八戸	18.6	12.7	6.6	12.7	167.7	77.0	61.2	306.0
秋田	19.9	13.6	7.6	13.7	177.9	160.7	183.5	522.1
盛岡	18.3	11.8	5.7	11.9	157.5	97.8	93.1	348.4
宮古	18.6	13.1	7.7	13.1	229.4	105.7	85.6	426.7
酒田	20.5	14.7	9.0	14.7	185.4	173.7	223.9	584.3
山形	19.7	13.2	7.2	13.4	134.3	76.0	80.8	291.1
仙台	20.4	14.8	9.1	14.8	218.4	99.2	66.8	384.3
石巻	19.9	14.2	8.3	14.1	163.1	104.1	65.1	332.3
福島	20.7	14.8	9.0	14.8	169.2	95.3	63.4	327.8
白河	19.1	13.2	7.6	13.3	215.9	111.9	65.0	392.9
小名浜	21.3	16.1	10.8	16.0	205.8	153.1	87.7	446.6

(2) 1971~2000年のデータに基づいた9~11月地域平均の気温、降水量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	9月	10月	11月	9~11月
気温平年差(℃)	東北地方	-0.5~+0.2	-0.6~+0.3	-0.3~+0.5	-0.3~+0.4
	東北日本海側	-0.5~+0.3	-0.6~+0.4	-0.3~+0.5	-0.4~+0.4
	東北太平洋側	-0.4~+0.3	-0.4~+0.3	-0.3~+0.6	-0.2~+0.4
降水量平年比(%)	東北地方	86~110	83~105	80~107	95~107
	東北日本海側	83~108	88~107	92~103	93~111
	東北太平洋側	87~112	63~113	68~111	93~108

(3) 接近する台風の平年値

	9月	10月	11月
東北地方	0.8	0.3	0.0

<参考資料(利用上の注意)>

- (1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。
- (2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。
- (3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 3か月予報解説資料 (9~11月)

平成17年8月25日 仙台管区気象台

1. 数値予報(アンサンブル予報)による大気の流れの予想

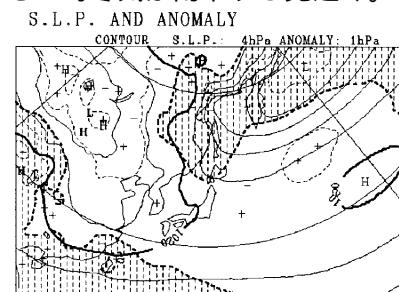
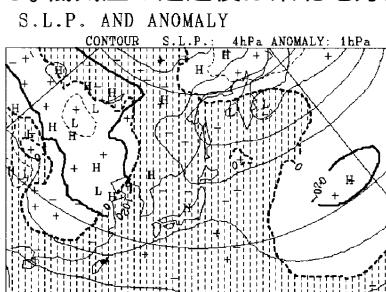
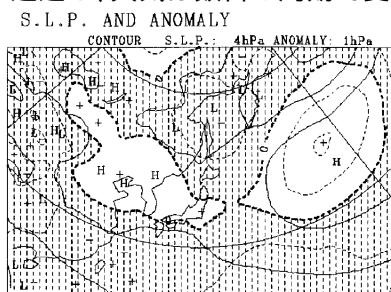
3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図(右図):

日本付近は正偏差で高温傾向が予想される。ただし北海道の北のサハリン付近からバイカル湖にかけては負偏差で北日本は一時寒気の影響がある見込み。

月別の地上気圧と偏差の予想図(下図。なお、予想図の精度は予想対象期間が先になるほど低下します。):
9月:日本の北と南は負偏差で気圧の谷。東北地方は気圧の谷の影響を周期的に受ける見込み。また日付変更線付近を中心に太平洋高気圧の勢力は強い。このため高温傾向で、晴れて暑い日もあるが、大陸の高気圧との境に相当する前線の影響をうけ天気のぐずつく時期もある見込み。

10月:関東付近で等圧線が北に盛り上がり、関東以西の太平洋側では前線や低気圧の影響を受けやすい。北海道付近は気圧の谷の通過に対応して等圧線がくびれています。東北地方は数日の周期で低気圧や前線の影響を受ける見込みだが、高気圧に覆われ晴れる日が多く、気温は高い見込み。

11月:北海道以北は冬型の気圧配置だが、東北以南は等圧線はまばら。低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わる。低気圧の通過後は東北地方にも一時寒気が南下する見込み。

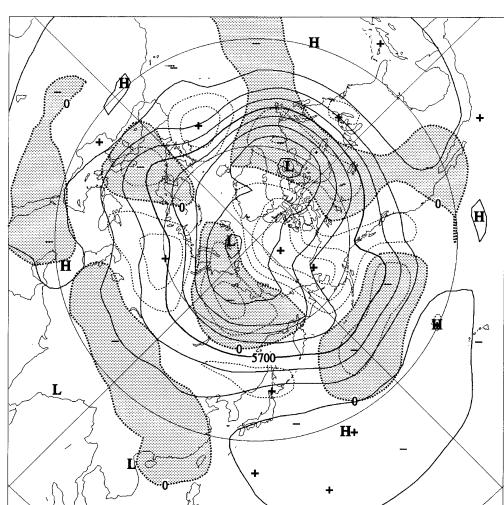


月別の地上気圧と偏差の予想図(左から9月、10月、11月)

等圧線:4hPa、偏差:1hPa、陰影部:負偏差

2. 循環場の特徴

8月1~20日:500hPa高度では、日本の南の太平洋高気圧は強く、中国東北区から北海道付近にかけても中緯度の正偏差が明瞭。このため、東北地方は高温となつたが、正偏差の中心は日本の北と南にあり、東北地方は一時気圧の谷や寒気の影響を受けて天気がぐずつき、にわか雨や雷雨の日が多かった。なお、東シベリア付近は負偏差でオホーツク海高気圧は発生しなかつた。

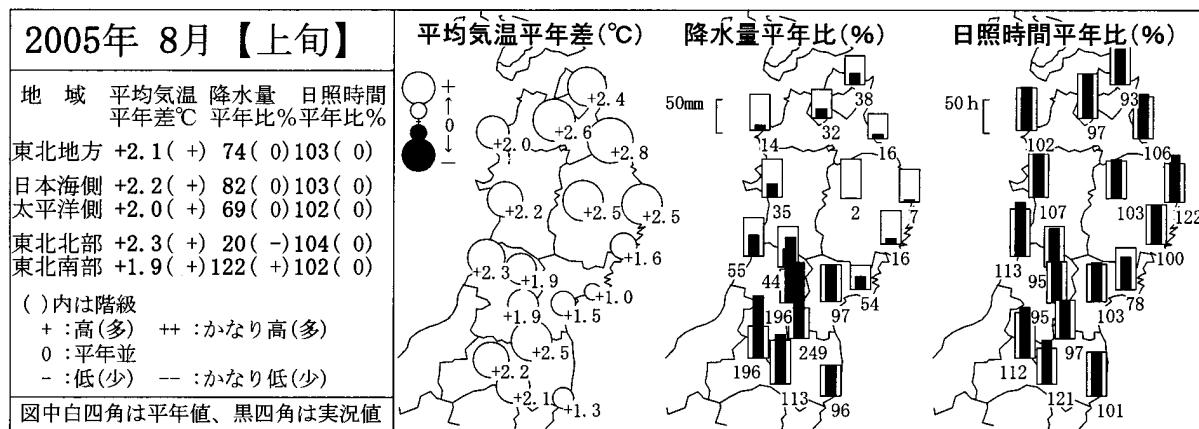


8月1~20日平均500hPa高度
等高度線:60m、偏差:30m、陰影部:負偏差

3. 最近の天候経過

8月上旬：太平洋高気圧に覆われ、晴れて暑い日が多かったが、期間の初めは太平洋高気圧のへりをまわる暖かく湿った南風の影響で、東北太平洋側では曇りの所が多かった。8日と10日は、上空に寒気が入り所々で雨や雷雨となった。特に10日は東北南部を中心に大雨となった。なお東北南部は8月3日頃、東北北部は8月4日頃梅雨明けしたと見られる。

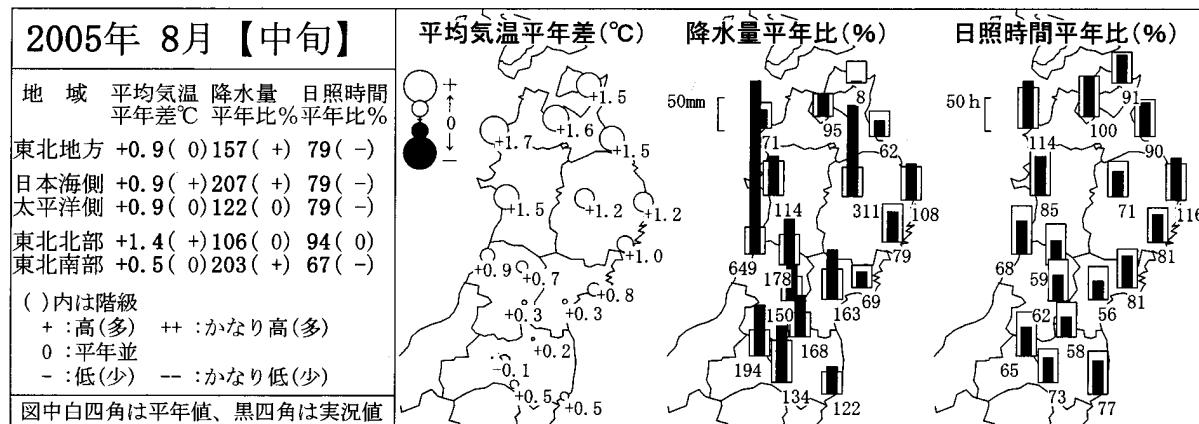
平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。日照時間は東北地方で平年並。



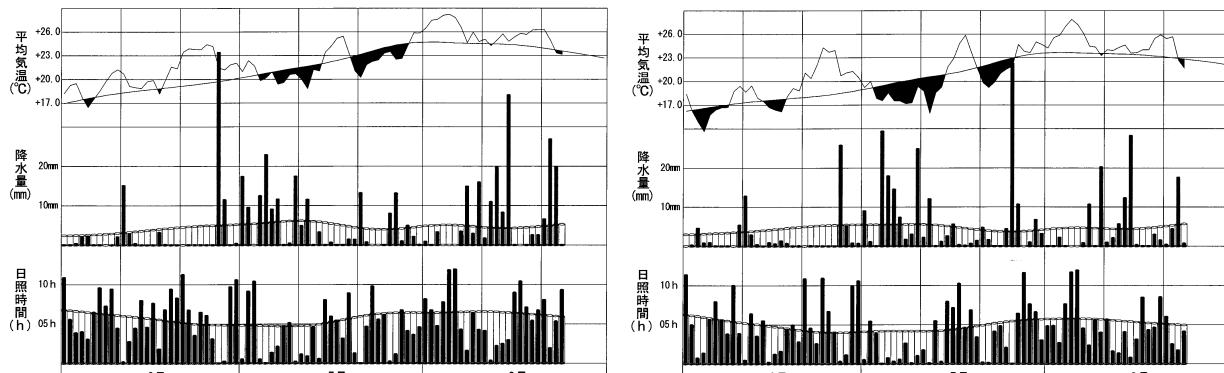
東北地方における8月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)

8月中旬：前半は前線や低気圧の影響で天気がぐずつき、局地的に大雨の所もあった。特に15日は所々で大雨となり、浸水害や土砂災害が発生した。後半は高気圧に覆われ晴れて暑い日が多かったが、午後はにわか雨や雷雨となる日があった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。



東北地方における8月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差(比)



東北日本海側の日別経過図

東北太平洋側の日別経過図

気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4. 太平洋赤道域の海水温等の状況、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し
エルニーニョ監視速報 (No.155) より抜粋。 (気象庁ホームページ：<http://www.jma.go.jp/>)

太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ全域で正偏差が見られたが、海洋表層(海面から深度数百mまでの領域)では負偏差が、大気下層では日付変更線付近を中心に東風偏差が卓越していた。

エルニーニョ監視海域の海面水温は、秋にかけて基準値(1961～1990年の30年平均値)に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移するとみられる。予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低い。

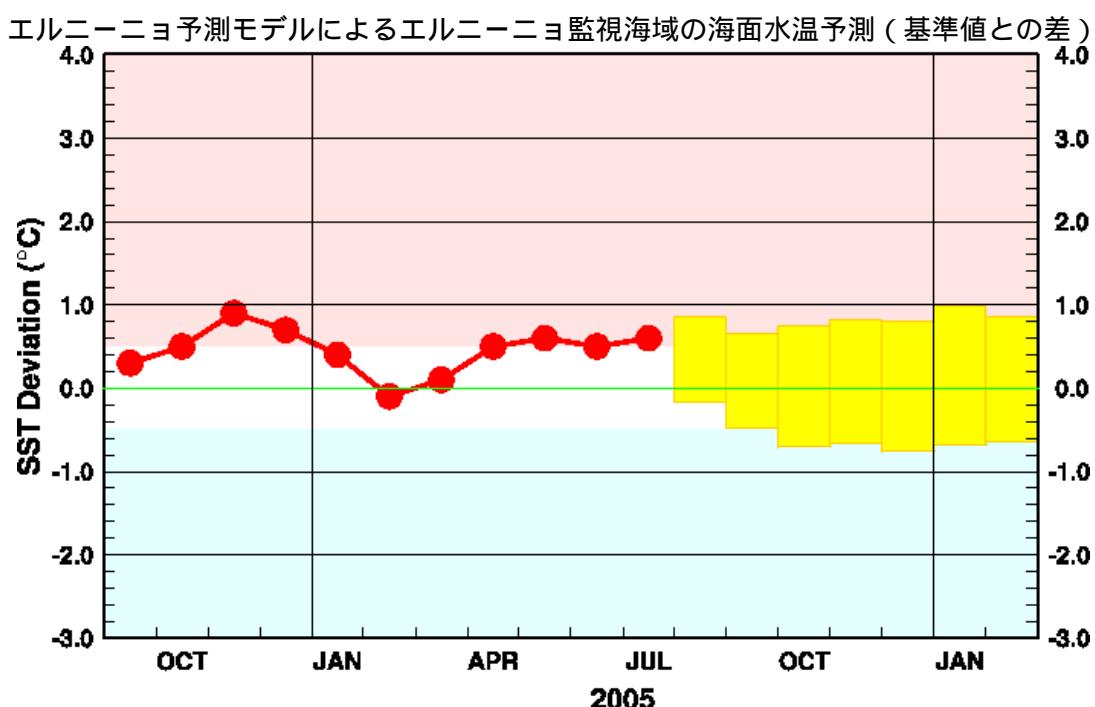
【解説】

7月の太平洋赤道域の海面水温は、ほぼ全域で平年より高く、エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差は+0.6 となった。しかし、東部赤道域の水温正偏差は海面付近に限られており、海洋表層ではむしろ負偏差が卓越していた。また、対流活動が東経150度付近で平年より活発だったことに対応して、日付変更線付近の大気下層では貿易風が平年より強かった。

このように、現在までの太平洋赤道域の大気および海洋表層の状況からは、東部の海面水温正偏差をさらに強める要因は見られない。

エルニーニョ予測モデルは、監視海域の海面水温が秋にかけて基準値に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移すると予測している。

以上のことから、監視海域の海面水温は、秋にかけて基準値に近づき、その後はほぼ基準値に近い値で推移するとみられ、予測期間中にエルニーニョ現象が発生する可能性は低いと判断される。



この図は、エルニーニョ監視海域の海面水温(基準値との差)の先月までの推移(折れ線グラフ)とエルニーニョ予測モデルから得られた今後の予測(ボックス)を示している。各月のボックスは、海面水温の基準値との差が70%の確率で入る範囲を示す。(基準値は1961～1990年の30年平均値)

<参考資料>

平年の天気出現日数(日)

	9月		10月		11月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	14.3	13.2	14.8	17.6	9.2	17.7
雨の日	12.5	12.0	13.0	8.8	15.8	8.1

注：季節予報では、「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」をそれぞれ晴れの日、雨の日の目安として用いている。この2つの事象は同じ日に起こりうるため、両方に数えられる日もある。なお、日照率は1日の日照時間を可照時間(太陽の中心が東の地平線に現れてから西の地平線に没するまでの時間)で割った値である。